

オジロワシの概要

1. 分類

- ・タカ目タカ科 オジロワシ
(学名 *Haliaeetus albicilla*)
- ・絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2019)



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長約 69~92cm、翼開長 200~245cm の大型のワシ類。
- ・海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣。
- ・海鳥類、スケトウダラ等の海産魚類を捕食。漁船が捨てる雑魚も餌にしている。
- ・冬期は本州北部から中部にも渡り、まれに九州、琉球列島などに飛来する。

3. 分布状況

- ・ヨーロッパ、西アジア、東アジアに分布。
- ・極東における繁殖地はカムチャツカ半島、サハリン、北海道等。

4. 現在の生息個体数

- ・北海道と本州北部で越冬するオジロワシは約 700~1,000 羽 (オジロワシ・オオワシ 合同調査グループ及び環境省による調査, 2010 年~2019 年度結果より)。
- ・種としての総個体数は約 20,000~40,000 羽と推定 (IUCN, 2014)。極東全体の総個体数は不明。
- ・北海道の推定営巣つがい数は約 170 つがいであり (環境省, 2010)、1990 年代に入って増加傾向である一方、繁殖成績の悪化が確認されている。

5. 生息を脅かす要因

- ・近年 10 年間の主要な傷病要因としては、交通事故、風車衝突、列車事故の順である。
- ・事故死したエゾシカを路上や線路上で採食することによる二次被害 (衝突死)。
- ・銃により捕獲されたエゾシカの死体を鉛弾とともに採餌することによる鉛中毒。
- ・森林伐採や道路開発などによる営巣地の減少。
- ・河川、湖沼、海岸の改修・開発による餌資源の減少。
- ・カメラマンやハンターの繁殖地への立ち入り。

6. 保護のための取組

- ・平成 5 年国内希少野生動植物種に指定、平成 17 年保護増殖事業計画 (文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省) を策定。
- ・越冬状況、営巣状況調査等を実施。
- ・人為的餌資源 (漁業活動から出る雑魚等)、自然性餌資源の把握。
- ・風力発電施設による影響調査。
- ・鉛中毒防止のため、道内では鉛弾の使用が条例により規制されている。
- ・海ワシ類の列車事故防止のため、JR と継続して情報交換を実施。
- ・傷病個体 (死体を含む) を保護・回収し、原因究明を行い、対策に活用。

7. 他法令による保護の状況

・昭和45年、天然記念物に指定。

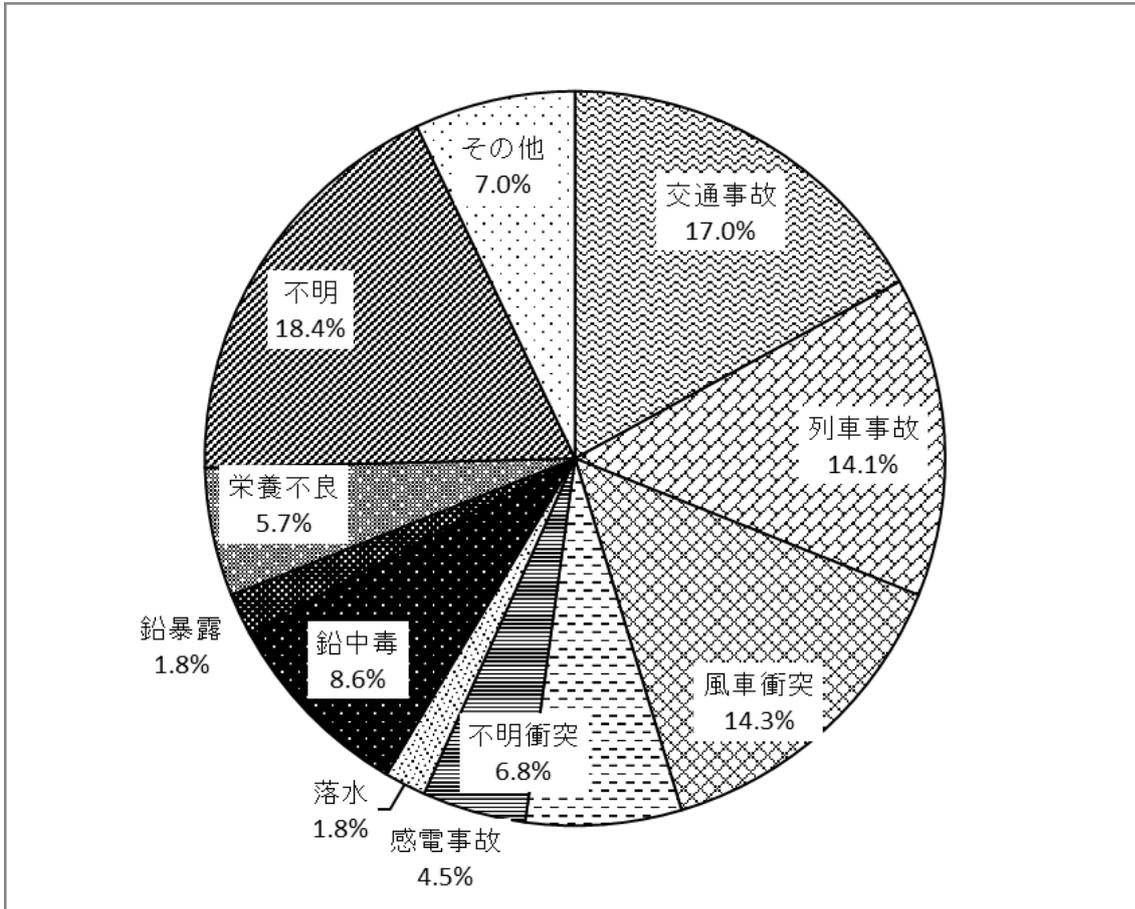


図1 オオワシ收容要因別割合 (H12-R 元年度)

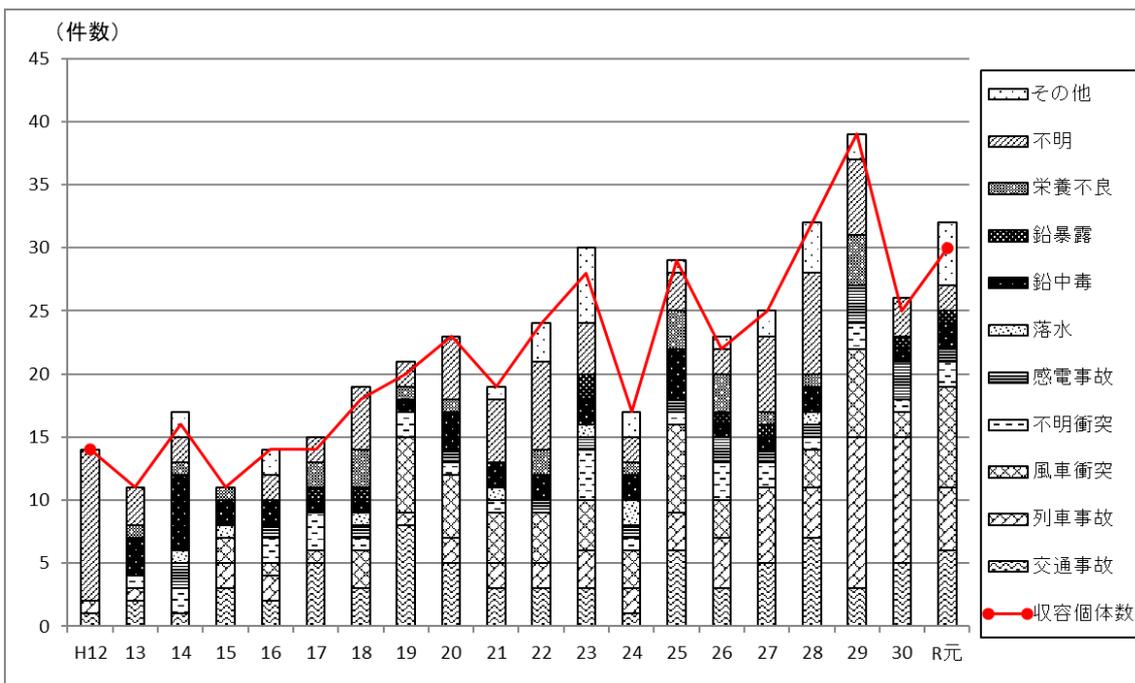


図2 オオワシ年度別收容件数 (H12-R 元年度)